



2020 応援団  
藤沢ビッグウェーブ

応援団の活動アーカイブ





# 目次

1	応援団とは	2
1-1	活動の設立趣旨と活動目的	2
1-2	団員登録と活動設定	3
1-3	活動概要	4
1-4	LINE・メルマガ・瓦版による情報発信	5
1-5	応援団ロゴマーク・応援団旗	6
2	応援団の立上げ	8
2-1	応援団の名前を考えてみよう	8
2-2	応援団設立イベント	9
2-3	応援団設立イベント	10
2-4	団員募集 ブースの展示	12
2-5	1964 映画観賞会	14
2-6	参画プログラム説明会	14
2-7	団員 1 万人突破記念 市長公開記者発表	15
2-8	アスリートと考えるまちづくり	15
3	団員による企画作りと活動	16
3-1	ビッグウェーブ・アイデアソン	16
3-2	団員企画の始動	18
3-3	遊行の盆チーム	19
3-4	江の島子どもフェスティバル	20
3-5	「浜辺の歌」サンバ2020人で踊ろう	21
3-6	伝えよう日本の文化「街頭紙芝居」	22
3-7	その他の団員企画	23
4	団員の活動参加	24
4-1	サポーターズミーティング	24
4-2	サポーターの活躍	26
4-3	団体・企業等による応援団 PR や団員募集の協力	27
4-4	藍染め体験会	28
4-5	ワールドカップフェスティバル	28
4-6	2030SDGs カードゲーム	29
5	コロナ禍での活動	30
5-1	～ビッグウェーブ再集結！～1年前オンラインまつり	30
5-2	みんなの歌をひとつに	32
5-3	応援団ガイドブック	33
5-4	Anthem on the Big Wave～国歌を通じて国際交流～	34
5-5	大会期間中の応援	36
6	大会終了後の活動	38
6-1	フジサワアイデアソン	38
6-2	チーム FUJISAWA2020 説明会 ～団体向け～	40
6-3	団員の声	41
7	結びに代えて	42
	添付資料 応援団活動関連年表	44

# 1 応援団とは

## 1-1 活動の設立趣旨と活動目的

市民の東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京 2020 大会と略)への応援気運を高めるため、誰もが参加・登録できる市民応援団「2020 応援団 藤沢ビッグウェーブ」(以下、応援団と略)の取組を 2018 年 4 月 1 日(日)に開始しました。

国際オリンピック委員会理事会において東京 2020 オリンピック競技大会・セーリング競技会場が江の島に変更となった 2015 年、内閣府が行った「特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査」<sup>1</sup>では、「ボランティア活動にとっても関心がある、少し関心がある」という回答が 59.6%に達しているのに対し、「ボランティア活動経験をしたことがある」という回答は 23.3%でした。ボランティアに「参加したい気持ち」はある方々に対し、「実際に参加する」ための環境整備や機会創造の取り組みが、ボランティアの裾野を広げることにつながると考えられます。

東京 2020 大会は、多くのボランティアの方々が活躍する場になることが期待された一方、大会期間中の最低活動日数や大会期間前の研修受講など、ボランティアの参加条件がハードルとなり、仕事や家庭の状況で参加が難しいという声も聞かれました。

藤沢市と特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構(以下、推進機構)では、東京 2020 大会の気運を高めるのと同時にボランティアの裾野を広げるべく、気軽に参加できる取り組みやアクションを起こすことへの心理的ハードルを下げる取り組みとして、「市民応援団」の在り方を検討しました。

市民活動団体等と行政との協働による施策・事業を推進する「まちづくりパートナーシップ事業提案制度」を活用し、市が事業アイデアの提案を募集する形で応援団事務局の協働運営を 2018 年 4 月 1 日(日)から開始し、「東京 2020 大会に関する情報の発信や講座の開催、東京 2020 大会を応援するイベント実施などを通じ、市民の主体的な応援気運を醸成する」ことを中心的な取組として、ひとりでも多くの方に東京 2020 大会との関わりを持っていただこうと、事業を推進しました。そして、2022 年 3 月 31 日(木)、「東京 2020 大会をきっかけに藤沢のまちを盛り上げる」という役割に一区切りをつけて応援団の取り組みは終了となりました。

表 1 応援団の目的とねらい

目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● (短期的) 東京 2020 大会の開催に向けた、市民の応援気運の醸成</li><li>● (長期的) 市民によるボランティア・市民活動への参加の土壌拡大</li></ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"><li>● これまでのボランティア募集には「興味がない」または「興味があるが参加したことはない」という方々が気軽に参加できる。</li><li>● アクションを起こすことへの心理的ハードルを下げる。</li><li>● 多くの市民に東京 2020 大会に向けた応援を「自分ごと化」していく。</li></ul>

<sup>1</sup> 内閣府(2016)『平成 27 年度 特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査 報告書』 pp.68-69 [https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/h27\\_houjin\\_shimin\\_chousa\\_all.pdf](https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/h27_houjin_shimin_chousa_all.pdf)

## 1-2 団員登録と活動設定

応援団は団員登録制として、気軽に登録できるよう「LINE(スマートフォン等向けコミュニケーションアプリケーション)」、「メールマガジン」、「瓦版 (LINE やメールの受信環境がない方向けの紙面での広報)」という3種類の登録方法を用意しました。自分に合った方法で登録し、東京2020大会に関する藤沢での活動などの情報を得ることを、団員活動の第一歩としました。

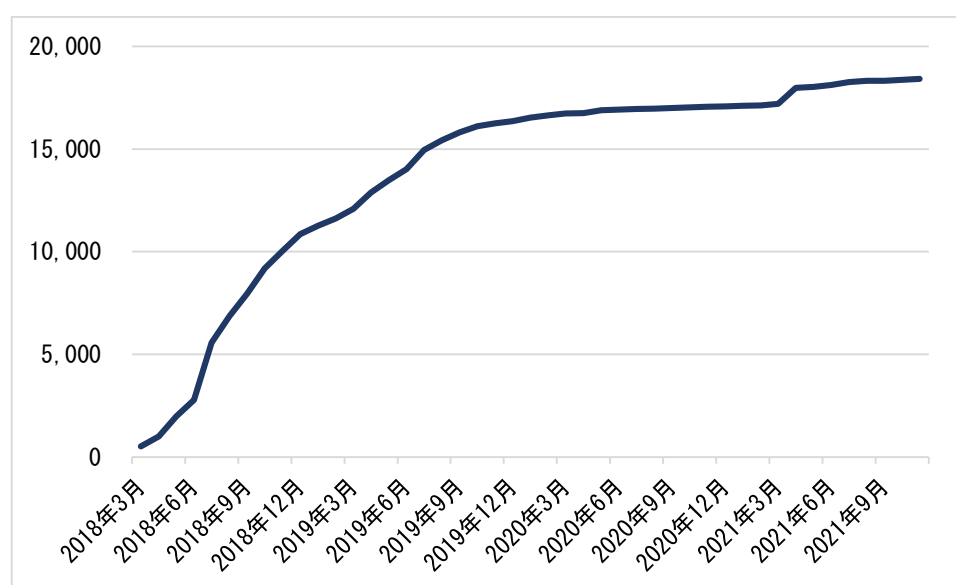
団員の活動は、関わりの度合いによって3つの層を設定し、一番気軽な参加をするライトな層、何か具体的な活動に参加するミドルな層、自らが活動を企画するコアな層を想定しました。具体的に、ライトな層は上記の団員登録により「情報を得る方」、ミドルな層は「イベント参加やボランティア参加する方」、コアな層は「自ら活動を起こし東京2020大会を盛り上げたい方」として活動を進めてきました。

応援団員の登録者数は、登録方法の手軽さがあり、2018年11月28日(水)、8か月という期間で1万人を突破しました。当時の藤沢市の人口は約43万人、世帯数が19万弱<sup>2</sup>ですので、応援団から発信する情報を、広く市民の皆さんに受け取っていただくことができました。最終的には1万8000人を超える方に団員登録していただきました。

表2 団員の種類

種類	活動度合	活動の想定	応援団事務局による活動支援(例)
コア		団員が自ら企画し、盛り上げ活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アイデアソンの開催</li> <li>● アイデアソン等で生まれた団員企画の活動支援</li> <li>● 参画プログラム説明会の実施</li> </ul>
ミドル		応援団事務局や市が主催する事業等に参加し、イベントの盛り上げやボランティアとしてサポートを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サポートズミーティングの実施</li> <li>● 各種イベント等でのボランティア募集、コーディネート</li> </ul>
ライト		応援団から届く情報入手し、東京2020大会に向けた身近な話題づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 応援団のLINE、メルマガメールマガジン、瓦版(広報誌)の配信</li> </ul>

表3 応援団員数の推移



<sup>2</sup> 藤沢市役所総務部文書統計課『藤沢市の人口と世帯数の推移』2018年11月

### 1-3 活動概要

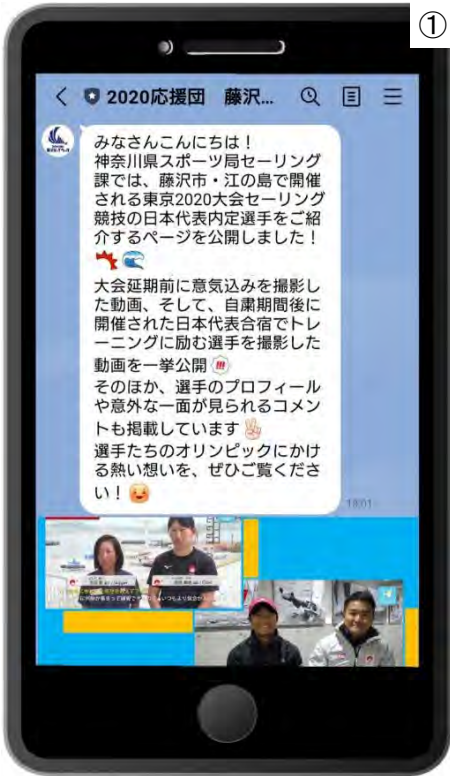
応援団の活動は、関わりの度合いをライト、ミドル、コアの3段階にわけて、それぞれの層を対象に想定した活動やサポートを行いました。また、団員個人だけでなく、すでに自主的な活動を行っている団体のサポートも行い、下記の通り大きく分けて5種類の活動を行いました。

- ① 情報発信（1-4参照）  
LINE、メールマガジン、瓦版にて情報発信を行いました。市内で開催されるものを中心に、東京2020大会を盛り上げるイベントやボランティア募集、応援団の活動状況などの情報を、週に1回～月に1回程度の頻度で事務局から発信しました。多くの方が応援団からの情報を受け取ることで、身近な話題づくりを促進し、大会に向けた気運醸成を図りました。
- ② 応援気運醸成イベントの実施（2-1～2-5、2-7、2-8、4-4、4-5、4-6、5-1、5-4参照）  
オリンピックやパラリンピアン、セーリング選手をゲストに招いたイベントを応援団事務局主催で開催し、大会に向けた気運を高めました。
- ③ 団員のボランティアの活動体験（4-1～4-3、5-2、5-3参照）  
シティキャストフジサワ（都市ボランティア）としての活動のほか、応援団事務局主催イベントでの運営ボランティア、海外セーリングチームとの交流イベントでのボランティアなど、大会開催前からボランティア活動に参加していただきました。また、定期的に「サポーターズミーティング」を開催し、団員同士の交流を深めました。
- ④ 団員による自主企画の発案・実施（3-1～3-7、6-1参照）  
応援団員が主体となって実施したい「団員企画」を立案し、団員が自ら実際に企画を運営・実行しました。
- ⑤ 既に活動されている団体向けの支援（2-6、6-2参照）  
自主的な活動を既に行っている団体を対象に、「東京2020参画プログラム」や「beyond2020」の認証取得の支援を行いました。また、東京2020大会終了後に「チームFUJISAWA2020団体向け説明会」を開催し、大会後にも継続したボランティア募集事業の支援を図っています。

表4 団員の種類と活動概要

一般の市民向け			既存の活動団体向け
種類	活動度合	主軸となる活動内容	
コア		④ 団員による 自主企画の発案・実施	
ミドル		② 応援気運醸成 イベントの実施	③ 団員のボランティアの 活動体験
ライト		① 情報発信	
			⑤ 既に活動されている団体 向け支援

# 1-4 LINE・メルマガ・瓦版による情報発信



①

## 2020応援団 藤沢ビッグウェーブ メールマガジン vol.166

②

1件のメッセージ

藤沢市 東京オリンピック・パラリンピック開催準備室 <noreply@fj-games2020.jp>  
To: 藤沢市民活動推進センター <f-npoc@shonanfujisawa.com>

◆2020応援団 藤沢ビッグウェーブ  
メールマガジン vol.166 (2021/8/15発行)

藤沢市民活動推進センター 様

こんにちは、2020応援団 藤沢ビッグウェーブ 事務局です。

◆東京2020(パラリンピック)聖火フェスティバル開催!◆

東京2020(パラリンピック)聖火フェスティバルの、「神奈川県」の典火・出立式が、本日8月15日(日) 18:30から開催予定です。

ここで出立した火は、8月20日(金)に都内で行われる典火式で、会場から集まった火とあわせて一つになり、東京2020(パラリンピック)聖火が誕生します。

典火・出立式はオンライン配信されるので、みなさん是非ご覧ください!  
<https://www.youtube.com/watch?v=dnPLOsXBAw8>

典火・出立式では、歌手・タレントでパラ応援大使の高橋みなみや、神奈川県ゆかりのパラリンピアン等が参加し、トークショーなども予定されています。

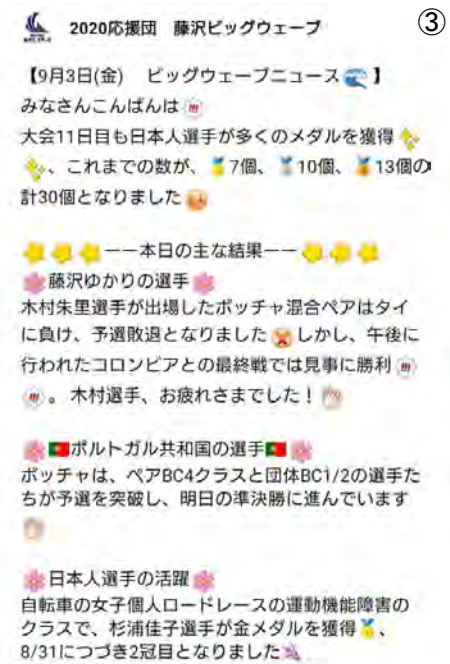
詳細は、神奈川県ホームページをご覧ください。  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/s3/tokyo2020/paratorch.html>

このメールは送信専用となっております。  
ご返信いただいても回答いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

メルマガの配信停止はこちらから: <https://fj-games2020.jp/support/unsubscribe.html>  
※再配信の場合、お手数ですが新規でご登録いただくか、下記の連絡先までお問い合わせください。  
メルマガの登録名変更はこちらから: <https://fj-games2020.jp/support/changename.html>

【発行元】  
2020応援団 藤沢ビッグウェーブ 事務局  
◆藤沢市 生涯学習部 東京オリンピック・パラリンピック開催準備室  
〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1 本庁舎5階  
◆特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構  
〒251-0052 藤沢市藤沢577番地 寿ビル301号室  
◆お問い合わせ先  
電話: 0466-53-7366  
メール: 2020ouen@f-npon.jp

※本事業は藤沢市東京オリンピック・パラリンピック開催準備室と特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構との協力で、実施・運営をおこなっています。



③



④

最もライトな団員の活動として、団員全員の方に「東京 2020 大会関連の情報」を受け取っていただきました。受け取った情報を話のタネにして、東京 2020 大会を盛り上げる会話の機会を増やすのが目的です。応援団事務局では、活動開始から終了までの4年間で、LINE 282 件、LINE VOOM(LINE 上の掲示板機能)79 件、メールマガジン 185 件、瓦版 12 件の情報配信をしました。大会終了後も、継続的にボランティアや市民活動など、レガシーにつながる情報の配信を行いました。

【写真説明】①LINE ②メルマガ ③LINE VOOM ④瓦版

# 1-5 応援団ロゴマーク・応援団旗



③

### 2020応援団 藤沢ビッグウェーブに入るには？

LINE@で友達登録するかメルマガに登録すれば、あなたも2020応援団 藤沢ビッグウェーブの一員です。まずは情報を見るだけでもOK！イベントに参加したり、協力したり、活動をどんどん広げていってください。みんなで東京2020大会や2020応援団藤沢ビッグウェーブを楽しみましょう！

①

LINE@で友達登録する  
(※SNSアプリLINEのアカウントが必要です。)



②

メルマガに登録する  
URL: <https://fj-games2020.jp>





**2020 応援団  
藤沢ビッグウェーブ  
応援団員募集**

※応募締切は東京2020大会開催前  
2020年10月31日(金)まで  
※2020年10月31日(金)まで

**事務局**  
藤沢市 生涯学習部 東京オリンピック・パラリンピック開催準備室  
認定NPO法人藤沢市民活動推進機構  
(平成30年度「藤沢市まちづくりパートナーシップ事業」参加団体)

**本件に関するお問い合わせ先**  
認定NPO法人藤沢市民活動推進機構  
TEL: 0466-33-7366  
E-mail: 2020@nenf-npon.jp  
受付時間: 10時～18時(休曜日・年末年始は除く)  
※火曜日が祝日の場合はその翌日

④

### 2020応援団 藤沢ビッグウェーブとは？

2020応援団 藤沢ビッグウェーブは、「オリンピック・パラリンピックに関わりたい」という気持ちと活動を通じ、2020年をきっかけにまちを盛り上げていく取組です。応援団に入るとさまざまな情報が届きます。イベントに参加したり、サポートしたり、あるいは自分たちで企画してみたり。東京2020大会をきっかけに、まちでさまざまな出会いや経験が生まれることを目指しています。

### 東京2020大会を盛り上げるためにできること

**まずは、楽しむ！**



2020年を心待ちにする気持ちがあれば、それも立派な盛り上げ活動です。東京2020大会に関する情報を得て、自分なりの楽しみ方を見つけていきましょう！

**自ら動いてみる**

大会運営のサポートを行う「大会ボランティア」、おもてなしの顔となる「都市ボランティア」、藤沢市独自のボランティアなど関わり方は様々。もちろん2020応援団 藤沢ビッグウェーブへの参加も、関わり方の一つです。

**東京2020参画プログラム・beyond2020**

すでに何か活動を始めたいという方は、(公財)東京2020組織委員会や内閣官房が主導するプログラムの認定が受けられる場合があります。みなさんの活動がまちを良くしたり、2020年を盛り上げるような一体的な取組となるよう、認定のサポートも行っています。

### 2020応援団 藤沢ビッグウェーブでできること

**情報を得る**

LINE@かメルマガに登録すると、東京2020大会に関する最新情報や、様々なイベント・ボランティア情報が届きます。他の応援団仲間の活動にも注目です。

**イベントに参加してみる**

オリンピック・パラリンピックに関わるイベントやキャンペーンをご案内します。気になったものがあったら、ぜひ参加してみてください。

**イベントのサポートをしてみる**

イベントには参加者としてだけでなく、サポート側として参加してみるのもオススメです。迎える立場だからこそ得られる楽しさもきっとあるはずです。

**団員ミーティング**

「何かしたい」、その向かを応援団の仲間と考えてみませんか？みんなが集まれる機会もあります。さまざまなアイデアで盛り上げていきましょう！





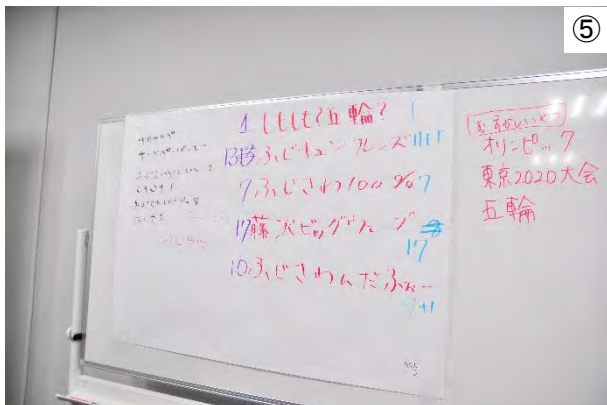
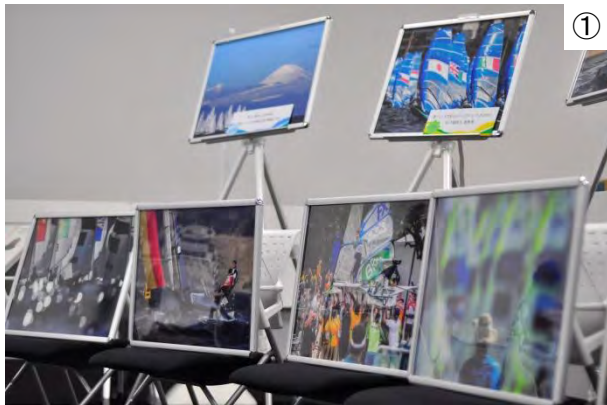
応援団では、オリジナルのロゴマーク（画像①）や応援団旗(画像⑤、⑥)を制作しました。ロゴマークは、藤沢生まれ・在住のイラストレーター藤江俊治さんが作成しました。応援・声援や、チーム、スポーツをイメージさせる「メガホン」や「櫂」、藤沢ビッグウェーブの名称にある「波」をモチーフに、デザインされました。2018年3月の応援団設立イベントにてデザインを公開して以降、のぼり旗（画像②）やパンフレット(画像③、④)、ポスター、団員グッズ、LINEのアイコンなど、様々な広報物各種で応援団のオリジナルロゴマークとイラストを使用してきました。

応援団旗は、藤沢生まれ・在住のアーティスト米山幸助さんが作成しました。セーリングの帆に使われる生地と同じ素材の布を使い、団員参加型で作成しました(2-2参照)。2種類の団旗には、セーリングに大きな影響を与える「風」と「水」の要素を取り入れました。「龍：風神」と「鯨：水神」が江の島に来て、手を振って応援している団員と一緒に大会を見守る様子が描かれています。団旗は応援団イベントなどで展示され、瓦版では記事下段を装飾する形で掲載されました。

【写真説明】 ①応援団メインビジュアル ②応援団のぼり旗 ③応援団紹介パンフレット(外側) ④応援団紹介パンフレット(内側) ⑤応援団旗(風神) ⑥応援団旗(水神) ⑦団員と一緒に応援団旗を作成する米山幸助さん ⑧写真左：応援団旗を作成した米山幸助さん、写真右：メインビジュアルを作成した藤江俊治さん

## 2 応援団の立上げ

### 2-1 応援団の名前を考えてみよう

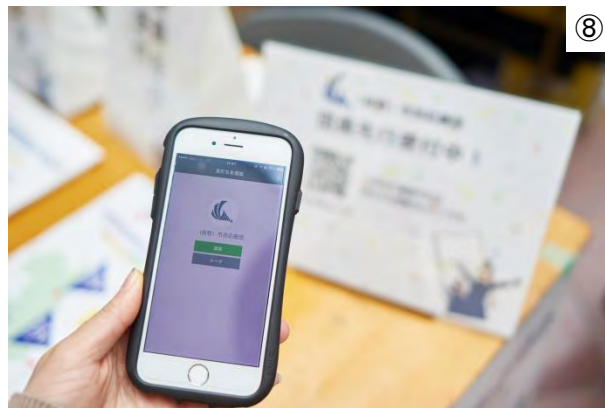


2018年2月3日(土)、藤沢市役所にて「市民応援団の名前を考えてみよう」を開催しました。市民応援団の正式名称を決定するため、その候補を市民からワークショップ形式で募りました。10代から20代の男女28人で話し合いました。

認定NPO法人ハンズオン埼玉の吉田知津子さんからネーミングを考える時のコツを学び、オリンピック・パラリンピックに関わるキーワードを出し、候補案を出し合い、投票をしました。その結果、「藤沢ビッグウェーブ」が第1候補、「ふじキュン♥フレンズ」が第2候補、「ふじさわんだふぉー」が第3候補となりました。この3つを応援団名称(案)として、事務局が提案を受け取りました。

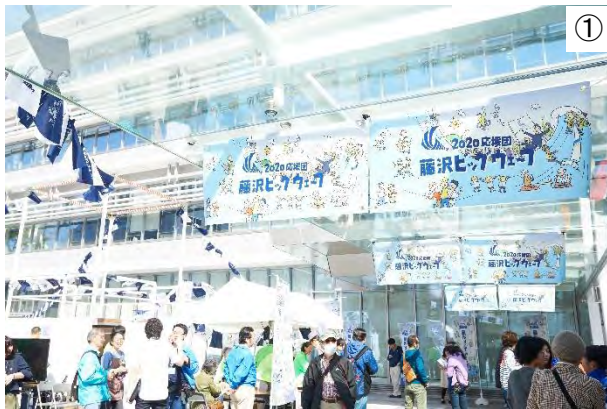
【写真説明】 ①「オリパラを連想させるイメージ」のパネル ②参加者の様子 ③参加者みんなでアイデア出し ④ハンズオン埼玉吉田知津子さん ⑤投票結果 ⑥参加者集合写真 ⑦会場の様子 ⑧LINEでの団員登録 ⑨連続旗へのメッセージ書き込みと塗り絵 ⑩書き込まれた連続旗 ⑪応援団旗へのハンドスタンプ ⑫連続旗と応援団旗の出来上がり

## 2-2 応援団設立イベント



2018年3月24日(土)、湘南台駅地下通路にて「市民応援団設立イベント」を開催しました。オリンピック・パラリンピックやセーリングに関するパネル展示、色付けやメッセージ記入による連続旗の作成、ハンドスタンプによる応援団旗の作成、応援団への事前団員登録受付などを行い、応援団設立イベントに向けた準備と藤沢市北部地域での東京2020大会に向けた気運醸成を行いました。当日は、連続旗の作成でご協力いただいた特定非営利活動法人さんわーく かぐやと、応援団旗の作成でご協力いただいた米山幸助さんに、やり方の説明や実施のサポートをしていただきました。134の方に事前団体登録をしていただきました。

## 2-3 応援団設立イベント



2018年3月31日(土)、同年1月に供用開始されたばかりの藤沢市役所本庁舎にて「市民応援団設立イベント」を開催しました。市民応援団の設立記念式典及び設立周知、団員募集、東京2020大会に向けた気運醸成を行いました。

市役所5階の設立記念式典では応援団の名称発表やロゴマーク・応援団旗(1-5参照)の公開、オリンピック・パラリンピック・藤沢ゆかりのアスリートによるトークショー、1階ラウンジでは展示やワークショップ、1階サンセット広場ではマーチングバンドによるパフォーマンス、江の島ヨット音頭、ボッチャ体験、関連企業・団体ブース出展、団員登録などが行われました。

新たに381の方が団員に登録されました。団員の方には藤沢産のトマトや豚を使ったミネストローネがふるまわれました。

【写真説明】 ①市役所への入口への橋の様子 ②設立記念式典での応援団名等の発表 ③Music of Mindによる演奏 ④満員の式典会場 ⑤応援団の登録ブースの様子 ⑥湘南栄養指導センターによる藤沢産トマトや豚を使ったミネストローネ炊き出し ⑦White Shooting Starsによるマーチング ⑧湘南ドルフィンズによるマーチング ⑨1階ラウンジでのふじさわこどもまちづくり会議実行委員会による藤沢の将来をイメージしたジオラマ ⑩夕波会による「江の島ヨット音頭」 ⑪ふじキュン♡も団員登録 ⑫1階サンセット広場の様子。お祭りをイメージし、櫓を設置しました。



ご協力いただいた皆様

- 【1階広場司会】 今城謙士さん
- 【1階広場出演】 特定非営利活動法 Music of Mind(記念式典にも出演)、おととき♪、夕波会、湘南台高等学校吹奏楽部 White Shooting Stars、湘南ドルフィンズ・マーチングバンド
- 【1階広場出展】 学校法人岩崎学園 情報科学専門学校、ネッツトヨタ湘南株式会社、藤沢市ポッチャ協会、特定非営利活動法人湘南栄養指導センター
- 【1階ラウンジ出展】 ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会、東京ガス株式会社、藤沢海洋少年団
- 【5階記念式典司会】 小川優さん
- 【5階記念式典出演】 石井雅史さん、上原大祐さん、大竹秀之さん、辻村琢光さん、つるの剛士さん(ビデオメッセージでの出演)、藤江俊治さん、米山幸助さん、ふじキュン♡
- 【全体協力】 WAWACINEMA(映像演出)、特定非営利活動法人湘南市民メディアネットワーク(映像中継)、NPO 法人湘南遊映坐(記録・撮影)

## 2-4 団員募集 ブースの展示



応援団活動の周知及び団員募集のため、市内各所で開催されたイベント等で事務局によるPRブースを出展しました。

ブースでは、団員登録の証となるオリジナルバッジの作成や、応援団オリジナルふじキュン♥スタンプ押し、ヨット模型づくり、実物のヨットの展示、グッズの配布など、参加して楽しめるブース展開をしました。

また、ブース出展にあたっては、団員からボランティアスタッフを募集し、団員登録の呼びかけや応援団の活動内容などの説明にご協力いただきました。

**【写真説明】** ①ブース出展(市民まつり) ②自分で絵柄を作成するオリジナル団員バッジ ③オリジナル団員バッジ作成の様子 ④ブース出展(市民活動推進センター) ⑤同(産業フェスタ) ⑥同(イトーヨーカ堂湘南台店) ⑦同(セーリングワールドカップ) ⑧ブース展示の様子(パラリンピック2年前イベント) ⑨作成したヨット模型 ⑩ブースでの応援団員の活躍(産業フェスタ) ⑪ブースでの応援団員の活躍(イトーヨーカ堂湘南台店) ⑫ブースでの応援団員の活躍(イトーヨーカ堂湘南台店)

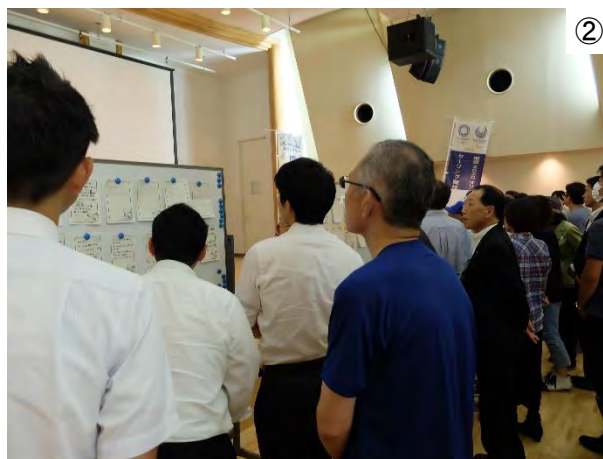


表 5 主な出展ブース一覧

期間	実施場所または出展イベント名
2018/5/16-20	イトーヨーカ堂湘南台店
2018/5/26-27	産業フェスタ(市民会館前広場)
2018/8/25	大会2年前記念イベント
2018/9/15	地域見本市
2018/10/27-28	イトーヨーカ堂湘南台店
2018/11/3-4	東京ガス展

期間	実施場所または出展イベント名
2018/12/15	市民活動推進センター
2019/3/16	500 日前イベント
2019/5/18-19	イトーヨーカ堂湘南台店
2019/9/28	市民まつり(秋葉台会場)
2019/10/26-27	イトーヨーカ堂湘南台店

## 2-5 1964 映画観賞会



2018年6月20日(水)、新堀ライブ館にて「1964 大会藤沢市記録映像上映会」を開催しました。このイベントでは、(1)映画鑑賞という気軽な内容で応援団の活動に参加してもらうこと、(2)1964年の記録映像をヒントに活動したいアイデアを出すこと、(3)他の団員とアイデアを交換し団員同志の交流を促すこと、の3つを目的としました。

本イベントでは、受付や誘導のボランティア募集も行い、2人の団員にご協力いただきました。

## 2-6 参画プログラム説明会



2018年6月29日(金)フジサワラボにて、同年10月19日(金)湘南台公民館にて、「東京2020参画プログラム」「beyond2020」の説明会を開催しました。「東京2020参画プログラム」は東京2020大会組織委員会、「beyond2020」は文化庁による事業の認証プログラムです。藤沢市内で活動を行っている団体等が東京2020大会に向けた気運醸成の取組に参加することをサポートするため、両プログラムの説明会を行いました。1回目は13団体、2回目は11団体の方にご参加いただきました。

2回目の説明会では、既に認証を取り活躍されているNPO法人帆船やまゆり保存会の中村満夫さんにお越しいただき、認証取得のメリットについてお話を伺いました。



## 2-7 団員 1 万人突破記念 市長公開記者発表

団員の登録者数が 1 万人を突破したことを記念して、2018 年 11 月 30 日(金)、藤沢市役所にて団員限定の市長公開記者発表を行いました。

リオ大会まで 3 大会連続でセーリング競技に出場した牧野幸雄さんと、女優の釈由美子さんをゲストに迎え、トークセッションなどを行い、東京 2020 大会に向けた気運を高めました。



## 2-8 アスリートと考えるまちづくり



2019 年 3 月 9 日(土)、ライブハウス・クラジャにて「アスリートと考えるまちづくり」を開催しました。世界で戦う選手の視点から見たまちづくりについてゲストに招いたアスリートからの話題提供をヒントに、今後取り組んでみたい活動についてアイデア出しを行いました。39 人の方にお集まりいただきました。

お話しいただいたアスリートは、牧野幸雄さん(セーリング、五輪北京・ロンドン・リオ 3 大会出場)、石井雅史さん(自転車競技、パラ北京(金・銀・銅メダル)・ロンドン・リオ 3 大会出場、藤沢市在住)、

内田一音さん(2017 年・2018 年アダプティブサーフィン世界選手権優勝)の 3 人。海外大会での経験や滞在時のエピソードを伺った後、東京 2020 大会を藤沢で迎える準備のアイデアを参加者がいくつかのグループに分かれて話し合いました。団員同士の交流のなかで、「セーリング勉強会の開催」、「障がい者視点でのモノづくり」、「アダプティブを拡めたい」など、同月に開催を予定していたビッグウェーブ・アイデアソン(3-1 参照)に繋がりそうなアイデアが生まれました。



【写真説明】 ①1964 年大会の様子を上映 ②東京 2020 大会に向けてやりたいことを書き出して共有 ③「東京 2020 参画プログラム」 「beyond2020」説明会の様子 ④説明会での意見交換の様子 ⑤1 万人突破記念イベントにご参加頂いた皆さま ⑥海外での体験をお話する牧野幸雄さん ⑦アスリートに質問する応援団員 ⑧アスリートと考えるまちづくりにご参加頂いた皆さま

## 3 団員による企画作りと活動

### 3-1 ビッグウェーブ・アイデアソン



応援団では、「何らかのアクションを起こす」ことに対する心理的ハードルを下げつつ、コアな活動を行う方々を増やすため、団員が主体的にやりたい応援活動を企画し、実際に挑戦していただく「団員企画」の取り組みを行いました。

2019年3月23日(土)、日本大学生物資源科学部食堂棟にて、応援団員が自ら企画を出し合い、仲間を見つけ、活動を始めるための、アイデア出し・グループづくりを行うワークショップ「ビッグウェーブ・アイデアソン」を開催しました。約100人の団員が集まり、自分のやりたいことや、サポートできることなど、大会に向けた活動のアイデアが9つ生まれました。

実際に企画が実現するよう、事務局で各企画の初回ミーティング開催をサポートするなどして、継続的に活動していく体制を作りました。

【写真説明】 ①会場の様子 ②鈴木市長のご挨拶「ビッグウェーブが藤沢のレガシーをつくる！」 ③アクティブラーナーズ米元洋次郎さんによる進行 ④参加者みんなでハイタッチ挨拶 ⑤応援団でやりたい企画アイデア出し ⑥やりたい企画の提案 ⑦企画の具体化を検討(民泊) ⑧同(紙芝居) ⑨模造紙に企画具体化のアイデアを書き出す ⑩会場全体の様子 ⑪検討結果を発表 ⑫参加したい企画に連絡先を投票

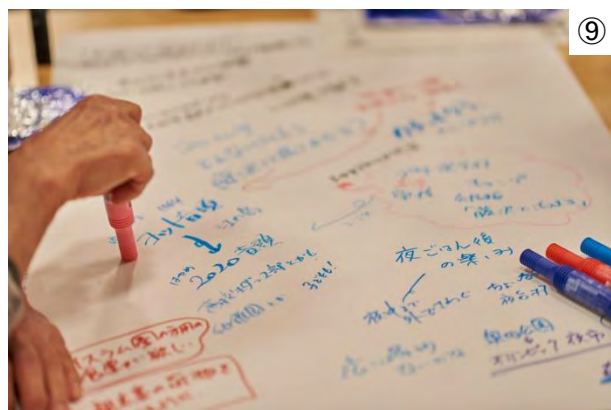


表 6 ビッグウェーブ・アイデアソンで生まれた団員企画

名称	提案されていた活動内容
1 藤沢 YouTuber サークル	藤沢の PR 動画の作成・配信
2 顔出し写真ボード	写真撮影用の顔出しボードの作成・展示
3 民泊(ネクストオリンピック交流の場)	国内外の大学の交流、選手・スタッフの宿泊場所の確保
4 みんなで遊行の盆をおどろう	遊行踊りやオリンピック音頭、ヨット音頭を踊って PR
5 江の島子どもフェスティバル	歌、ダンスを中心に子ども達がやりたいイベントを実施
6 「浜辺の歌」サンバ2020人で踊ろう	2020人が「浜辺の歌」サンバを踊って盛り上げる
7 サンドアート&ビーチクリーン&マーチング	藤沢の海の美化、サンドアートづくり
8 オリ・パラ・セーリング観戦	セーリング観戦、実況解説。セーリングを知ってもらう
9 伝えよう日本の文化「街頭紙芝居」	藤沢の魅力の詰まった紙芝居を作成する

### 3-2 団員企画の始動



①



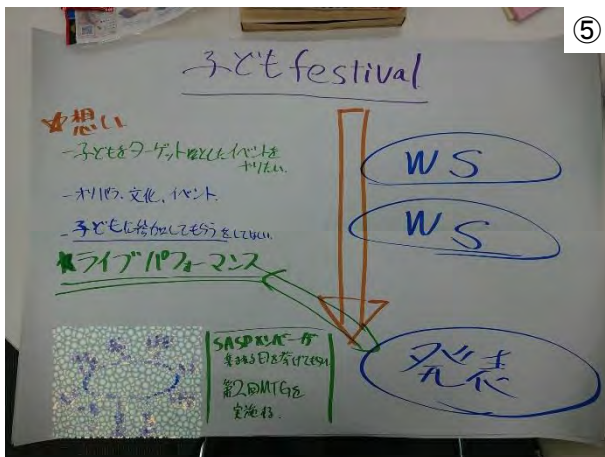
②



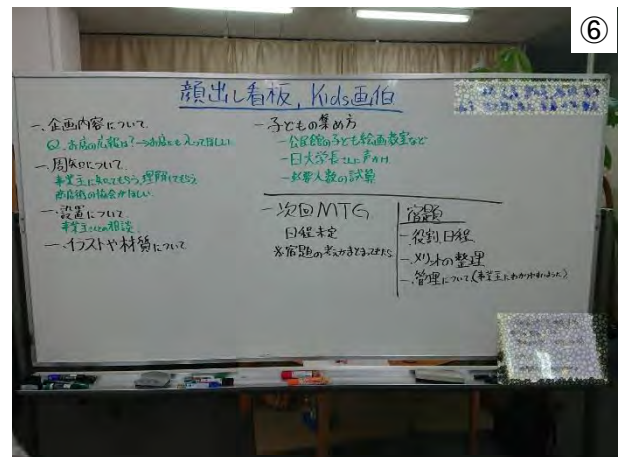
③



④



⑤



⑥

応援団事務局では、各団員企画の実現に向け、企画グループによる会議の日程調整・会場確保・活動実施時の応援団員への周知等の支援のほか、藤沢市による「ボランティア企画提案型プロジェクト助成事業」の募集案内等を行いました。また、アイデアソンで生まれた団員企画以外にも、団員から提案があった企画については随時サポートを行いました。各団員企画について、次ページから紹介します。

【写真説明】 ①団員企画の活動スタート(浜辺の歌サンバ) ②同(紙芝居) ③同(藤沢 YouTuber) ④同(遊行の盆) ⑤話し合い内容の記録(子ども fes) ⑥同(顔出し写真ボード) ⑦遊行の盆チームのメンバー集合 ⑧オリジナル法被づくり ⑨遊行のおどりコンテストに参加 ⑩市民まつりパレードに参加 ⑪遊行の盆踊りに参加 ⑫市長や夕波会の皆さんと一緒に踊る遊行の盆チーム

### 3-3 遊行の盆チーム



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

遊行の盆チームでは、「応援団員が集まって遊行の盆コンテストに出場する」ことで、コンテスト参加者や来場者に「東京 2020 オリンピック競技大会・セーリング競技が、藤沢・江の島で開催されることをPR する」ことを目的に活動しました。2019 年 7 月の遊行の盆コンテストへの参加にあたり、コンテストへ一緒に参加していただける団員の募集、藤沢市商工会議所開催の練習会への参加、オリジナル法被の作成などの準備を行いました。コンテストでは受賞とはなりませんでしたが、踊りの後はお互いに労をねぎらい、企画の目的である東京 2020 大会の近づきをPR することができました。

2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルスの影響により遊行の盆コンテストが開催されませんでした。藤沢市民まつりなど、市民が多く集まるイベントに参加し、東京 2020 大会に向けた気運醸成を図りました。

### 3-4 江の島子どもフェスティバル



①



②



③



④



⑤



⑥

江の島子どもフェスティバルチームは、「文化・芸術の祭典であるオリンピックの意義を、子どもたちに楽しい思い出とともに伝えること」を目的に活動を行いました。ボーカル&パフォーマンスユニットSASP(サस्प)のメンバーが活動の中心となり、湘南とセーリングをイメージしたオリジナルソング「Link the wind」を制作し、藤沢市民まつりや応援団のイベント等で披露しました。2019年11月に行われたFujisawaSST文化祭では、事前に「Link the wind」の練習会を開催し、子どもたちに歌と踊りの楽しさを伝えました。

新型コロナウイルスの影響が出た後も精力的に活動を続け、オンラインまつり(5-1参照)では新たな楽曲「Rock Yourself」を披露。大会前最後の応援団事務局主催イベントであるAnthem on the Big Wave(5-4参照)では、海上自衛隊横須賀音楽隊の皆さんと一緒に舞台に立ち、過去大会のテレビ放送でオリンピック・パラリンピックのテーマソングになった楽曲等のパフォーマンスによって、大会の開催気運を高めました。

### 3-5「浜辺の歌」サンバ2020人で踊ろう



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

「『浜辺の歌』サンバ 2020 人で踊ろう」の企画では、東京 2020 大会をきっかけに湘南の魅力为全国・全世界に発信することを目的に活動しました。辻堂駅の発車メロディにもなっている、湘南の海岸をイメージした楽曲「浜辺の歌」をサンバのリズムでアレンジし、2020 人で踊るプロモーションビデオの制作を通じて、湘南の魅力を伝える活動を行いました。

新型コロナウイルスの影響により大勢で一緒に踊ることは難しくなりましたが、オンラインで練習会を実施したり、各自で撮影した踊り動画を集めてみんなで踊っているように動画編集したり、やり方を模索しながらプロモーションビデオを制作しました。



サンバ動画

【写真説明】 ①市民まつりで Link the Wind を初公開 ②1 年前オンラインまつり ③子ども達との練習 ④FujisawaSST 文化祭 ⑤Anthem on the Big Wave ⑥海上自衛隊とのコラボレーション ⑦市民まつりでのステージ演奏の様子 ⑧藍の焔で撮影 ⑨アーティストックスイミングの撮影 ⑩アーティストックスイミングに参加したメンバーの集合写真 ⑪練習会での集合写真 ⑫浜辺の歌サンバ 動画

### 3-6 伝えよう日本の文化「街頭紙芝居」



①



②



③



④



⑤



⑥

「伝えよう日本の文化『街頭紙芝居』」では、藤沢やオリンピック・パラリンピックに関する紙芝居を作成し、藤沢市民や選手・観戦者の方々に披露することで、東京2020大会を盛り上げつつ、日本の文化を拡めることを目標に活動しました。1964年開催の東京オリンピック・ヨット競技が江の島で開催された際に起きたスポーツマンシップあふれる実話を基に、オリジナル紙芝居「人間愛の金メダル」を作成。完成した紙芝居は、ショッピングモールや市民まつりなどで上演しました。



紙芝居動画

新型コロナウイルスの影響が出た2020年以降は、自宅などで紙芝居を楽しめるように上演動画を作成し、インターネットで公開しました。この動画は、応援団ガイドブック・各国の挨拶チーム(5-3を参照)の協力を得て英語訳の字幕を掲載して外国の方も楽しめるようにしました。

【写真説明】①紙芝居作成 ②紙芝居の初披露 ③市民まつりでの上演 ④動画撮影 ⑤動画編集 ⑥紙芝居動画 ⑦ミーティングの様子(顔出し写真ボード) ⑧サンドアート&ビーチクリーン&マーチングの様子 ⑨「#フジサワの高校生」のポスター ⑩「ピースでつながるWA」モザイクアート ⑪ホテルのケーススタディで学ぶ「おもてなし」 ⑫オリジナルテキストで学ぶ英語講



### 3-7 その他の団員企画

その他、アイデアソンで提案された企画や、アイデアソン以外で団員から提案があった企画などを紹介します。

#### ◆顔出し写真ボード

顔出しボードを江の島島内や観光客が立ち寄るような場所に設置し、藤沢を世界に知っていただく活動。実施方法について提案がまとまらず、事業化されませんでした。

#### ◆藤沢 YouTuber サークル

藤沢への興味を引き出す PR 番組を作成する企画。市内で開催された東京 2020 大会イベントにて取材を行い、動画をインターネット上で配信しました。

#### ◆サンドアート&ビーチクリーン&マーチング

東京 2020 オリンピック競技大会セーリング競技が開催される江の島周辺のビーチクリーンと、イルカのサンドアート制作による団員交流を企画しました。2019 年 6 月にテストイベントを実施しましたが、大会開催となる 2021 年は新型コロナウイルスの影響により活動中止となりました。

#### ◆#フジサワの高校生

藤沢在住・在学の高校生が、藤沢の魅力を発信する動画作成などを行いました。

#### ◆モザイクアート制作企画「FUJISAWA2020 ピースでつながる WA」

藤沢を盛り上げたい！という思いを持つ皆さんからピースサイン(Vサイン)の写真を 2020 枚募集し、市の花である「フジ」の絵柄のモザイクアート作品を制作しました。シティキャストが中心となって作品作成が進められ、作品は市役所に展示されました。

#### ◆ハートセーリングプロジェクト

藤沢ゆかりのアーティストが集まり、CD 作成を目標とすることを発端とした企画。企画内容を変更し、「みんなの歌をひとつに」(5-2 参照)を実施する際のリードボーカルなどとしてイベントに協力しました。

#### ◆特別講座 ホテルのケーススタディで学ぶ「おもてなし」

2018 年のセーリングワールドカップシリーズ江の島大会で海外セーリングチームの宿泊を迎え入れたホテル「FUJISAWA HOTEL EN」の協力により、支配人が講師となっておもてなし講座を団員対象に開催しました。

#### ◆特別講座 オリジナルテキストで学ぶ英語講座！～初級編～

藤沢駅での乗換や江の島までの道案内の場面など、海外からの観光客や、選手・関係者との会話を想定したオリジナルテキストにより、英語講座を開催しました。講師・テキスト作成は、自身も団員であり、市内の中学校・高校にて英語講師を務めているジェシー・ニューボールドさん(湘南インターナショナルサービスの協力によって実現しました。



## 4 団員の活動参加

### 4-1 サポーターズミーティング

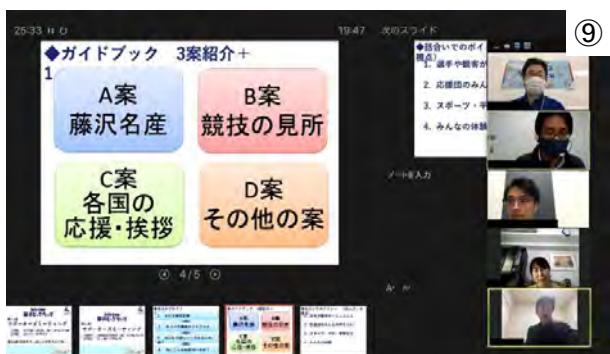


団員同士の交流機会として、「サポーターズミーティング」を実施しました。

第1回のミーティングは2019年2月に開催しました。これまでの応援団活動でボランティアとして関わっていただいた方から参加の意義と活動の魅力についてお話しいただき、3月に開催する「ビッグウェーブ・アイデアソン」に向けてのサポートをお願いしました。

第2回のミーティングは2020年2月に開催。団員がオリンピック・パラリンピックでの活躍の場とつながっていることを確認し、今後の応援団活動で期待していることについて意見交換をしました。

【写真説明】 ①第1回サポーターズミーティングの様子 ②先輩サポーターによる活動紹介 ③サポーター同士による意見交換 ④第2回サポーターズミーティングの様子 ⑤サポーター同士による意見交換 ⑥応援団活動に期待していることを発表 ⑦オンラインで歌う曲候補を提案 ⑧たくさんの方にオンラインミーティングにご参加いただきました ⑨ガイドブックの構成案の検討 ⑩歌う曲目をみんなで決定



第3回からは、対面ではなくオンラインでの実施となりました。2020年10月から開催の第3回は、オンラインまつり(5-1で紹介)にて提案が出された「ガイドブック作り」と「みんなで歌おう」についてアイデア出しをしました。東京2020大会にあわせて藤沢のことを知ってもらうためのオリジナルガイドブック作り企画では、「藤沢の紹介」「競技の見所」「各国の応援・挨拶」といったテーマから掲載したい内容について意見を出し合いました。団員が選んだ歌によって気持ちをつなぎ、東京2020大会を応援していく「みんなで歌おう」企画では、年齢によって馴染みのある楽曲が異なることから、年齢層をわけて楽曲の候補を考える会議を合計5回開催しました。

第4回のミーティングでは、ガイドブックのページ配分とみんなで歌う楽曲を決めました。話し合いの結果、ガイドブックは「藤沢の紹介」が4～5割、「競技の見所」が2割、「各国の応援・挨拶」が2割、そして新型コロナウイルスへの対応や熱中症、津波避難などの内容で1割程度となるページ構成とすることが決まりました。「みんなで歌おう」企画の楽曲は、第3回で出された約30曲の案からFoorinの「パプリカ」、桑田佳祐の「SMILE～晴れ渡る空のように～」、SMAPの「世界に一つだけの花」の3曲が選ばれました。

オンラインで開催した交流会であったため、福岡県やイギリスからも団員が参加してくれました。

表7 アイデアソンの実施概要

開催日	会場	内容	参加人数
1 2019/2/17	農家レストランいぶき	ビッグウェーブ・アイデアソンの実施について	28
2 2020/2/15	新堀ライブ館	応援団への期待と今後の活動について	39
3 2020/10/30 ～11/21	オンライン	世代別に関し5回実施。 「ガイドブック」の掲載内容についてと、「みんなで歌おう」で歌う曲目のアイデア出し(5-2、5-3を参照)	19
4 2020/12/13	オンライン	「ガイドブック」のページ構成との決定と、「みんなで歌おう」で歌う曲目の選定。	25

## 4-2 サポーターの活躍



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

応援団では、設立のコンセプトを検討する段階から事務局だけでなく団員と一緒に活動を作り上げていくという考えがあり、応援団設立前の「名称を考えるワークショップ」からサポーターの皆さんに受付などの運営の協力していただきました。

その後のイベントでは、団員登録の呼びかけ、LINEでの団員登録サポート、イベント会場の設営、受付、参加者の誘導など、様々な場面でサポーターの皆さんに活躍していただきました。

### 4-3 団体・企業等による応援団 PR や団員募集の協力



⑧



⑨



⑩



⑪

1万8000人を超える応援団員が集まったのは、応援団事務局による募集活動だけで達成できたものではありません。応援団員自身による新たな団員参加の呼びかけを行った効果が大きく出ました。サポーターや応援団員による参加呼びかけのほか、団体や企業による組織的な応援団参加の呼びかけが行われました。

組織的な呼びかけでは、「未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会」の構成団体による応援団ポスターの掲示ははじめとして、市内の郵便局や銀行（横浜銀行・かながわ信用金庫）の窓口、市内に拠点を持つ東京2020大会のオフィシャルスポンサーの店舗、スポーツショップ、商品パッケージ、ビルの懸垂幕広告など、様々な形で多くの団体・企業等にご協力いただきました。

【写真説明】①一番最初のサポーター。応援団が立ち上がる前からサポーターが活躍 ②応援団設立イベントでの新規団員登録の対応 ③LINE登録の説明をするサポーター ④イベントの受付をするサポーター ⑤会場設営をするサポーター ⑥会場で参加者をお出迎え ⑦イベント当日のブリーフィングの様子 ⑧トヨタ自動車でのポスター掲示 ⑨郵便局でのポスター

#### 4-4 藍染め体験会



2019年8月25日(日)、東奥田公園で開催されたe マルシェにブース出展し、「湘南ブルーにみんなで染めよう！藍染め体験会」を開催しました。藍染めしたスカーフは、「浜辺の歌」サンバ2020人で踊ろうチーム(3-5参照)で、サンバを踊る際に共通で身につけるアイテムとして活用しました。作成には「湘南ブルー藍プロジェクト」にご協力をいただきました。

#### 4-5 ワールドカップフェスティバル



2019年8月25日(日)から9月1日(日)開催の「セーリングワールドカップシリーズ江の島大会2019」において、大会期間最後の2日間8月31日(土)と9月1日(日)に「ワールドカップフェスティバル」が開催されました。応援団は、イベントのボランティア募集と、観覧会を開催しました。

ボランティアは、東京2020大会の都市ボランティアの予行練習として参加を希望される方が多く、募集定員36人のところ162人の応募がありました。

観覧会は、応援団員で集まって一緒にセーリング競技会場を回ること、セーリングについての興味関心を一段上げることが目的で、32の方にご参加いただきました。

## 4-6 2030SDGs カードゲーム



⑥



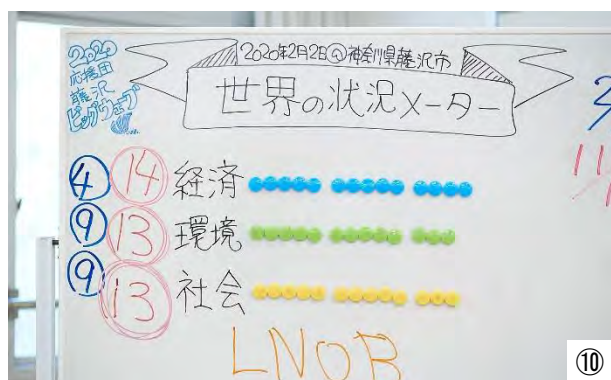
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪

2020年2月2日(日)、フジサワ名店ビル会議室にて「2030 SDGs カードゲーム」を開催しました。SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの持続可能な国際開発目標です。東京2020大会も、「Be better, together / より良い未来へ、ともに進もう」を持続可能性のコンセプトとし、東京2020大会の取り組みを通じて国連のSDGsに貢献することが謳われています。応援団の活動や団員の生活にもSDGsの考え方を取り込むため、2030SDGsカードゲーム公認ファシリテーターの横山泰治さんを講師に迎え、ゲーム感覚でSDGsについて学びました。

当日は、32人がカードゲームに参加しました。参加者からは、「見える化されていてわかりやすかった」、「チームの話し合いが良かった」、「SDGsの取組みに積極的に参加したい」、「ゲームでの理解が深まり、自分の意識付けにつながった」と好評でした。また、応援団の活動については、「赤ちゃん連れで参加できるイベントを実施して欲しい」、「藤沢に来る人たちによい街と思ってもらえるような活動をしたい」など、継続性や持続可能性の視点からの取り組みについてのご意見をいただきました。

【写真説明】①藍の葉の準備の様子 ②藍染めの様子 ③できあがった藍染め ④ワールドカップフェスティバル参加者集合写真 ⑤帆船みらいへに乗船 ⑥2030SDGsカードゲーム 公認ファシリテーターの横山泰治による進行 ⑦SDGsについての座学 ⑧2030SDGsカードゲームに挑戦 ⑨ゲーム事務局にカードをお渡し ⑩本ゲームの要・世界の状況メーター ⑪チームで相談しながらゲームが進行・別チームの方とも相談

## 5 コロナ禍での活動

### 5-1 ~ビッグウェーブ再集結！~1年前オンラインまつり



2019年末から世界的に流行した新型コロナウイルスの影響により、2020年3月、東京2020大会が1年延期することが決まりました。応援団の活動も大きく影響を受けましたが、LINEやメールマガジンなどのIT技術を用いた情報配信を続け、1年間の延期期間をさらなる準備期間と前向きに捉えて活動を行いました。

延期後の1年前となる2020年7月23日(木)、団員の「新たにできた1年を楽しむ」という気持ちを醸成するため、「~ビッグウェーブ再集結！~1年前オンラインまつり」を開催し、オンラインでライブ配信しました。タレントで聖火ランナーのつるの剛士さん、フリーアナウンサーの宮川浩子さん、藤沢市東京オリンピック・パラリンピック開催準備室の赤坂室長が出演し、事前に団員から寄せられた質問等を基に、「延期となった1年間でどう楽しむか？」や東京2020大会に向けた想いについてトークしました。

また、江の島子どもフェスティバル(3-4参照)のSASP(サブ)に登場いただき、ライブパフォーマンスで盛り上げていただきました。



【写真説明】 ①オンラインまつりの会場の様子 ②出演された皆さんの集合写真 ③聖火ランナー つるの剛士さん  
 ④オリパラ準備室 赤坂政徳室長 ⑤司会・宮川浩子さん ⑥1964年大会の聖火トーチを手にするつるのさん ⑦⑧SASPによるパフォーマンス ⑨⑩初めてのオンライン実施の様子 ⑪イベント終了時の様子 ⑫オンラインまつり 動画



オンラインまつりは、応援団事務局としてコロナ禍で初めて実施したイベントでした。実施にあたり、特定非営利活動法人湘南市民メディアネットワークに動画撮影・放送を、新堀ライブ館に会場提供をご協力いただき、開催することができました。



オンラインまつり

表 8 オンラインまつりで話し合われた「せっかくの1年を楽しむ企画」

提案内容	
1	ビーチクリーンをもう1回する。昨年にやったけどオリパラ前にまたキレイにしたい。
2	藤沢を紹介するために、応援団が紹介する「藤沢ガイドブック」を団員みんなで作りたい。
3	藤沢市の協力していただける方みんなで作る一つの作品をつくりたい。
4	延期になった1年間で団員から写真を集めて、それを素材にモザイクアートをやりたい。

## 5-2 みんなの歌をひとつに



①



②



③



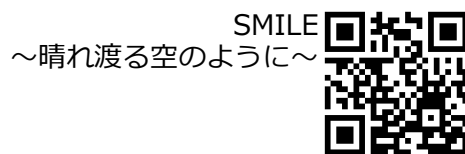
④



⑤



⑥



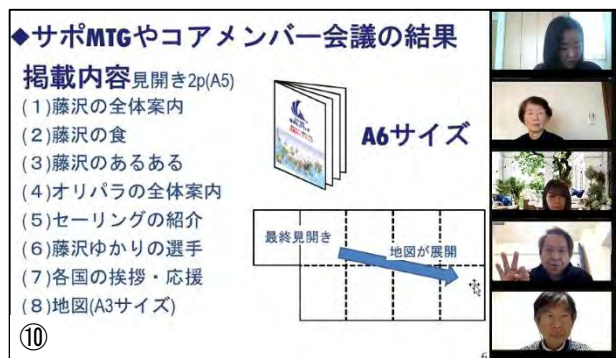
1年前オンラインまつりで提案があった「みんなで作る一つの作品」というアイデアを具体的な活動にしたもので、団員の歌唱動画を一つにまとめる企画として実施しました。曲目は、サポーターズミーティングで選ばれた「パプリカ」、「SMILE～晴れ渡る空のように～」、「世界に一つだけの花」の3曲(4-1参照)です。

2021年1月30日(土)には、録音の機会として「みんなの歌をひとつに～オンライン録音会～」をオンライン開催しました。配信会場では、タレントの大矢剛康さんによる司会進行と、リードボーカルの戸田奈々さんとダンス隊に盛り上げていただき、3曲を当日参加した団員と一緒に歌い、録音しました。戸田さんは湘南のアーティストが集まって作品を作る「ハートセーリングプロジェクト」(3-7参照)を企画した団員です。録音会後にも歌唱動画を団員から募集し、集まった動画を一つの作品にまとめて同年3月に公開をしました。

### 5-3 応援団ガイドブック



応援団  
ガイドブック  
web版



2021年3月31日(水)、「藤沢にもう一度来たくなる 応援団ガイドブック」を公開しました。本企画も、「1年前オンラインまつり」で話題に上がったことをきっかけに生まれた活動です。サポーターズミーティング(4-1参照)にて掲載内容を検討し参加した団員のなかからさらに4名が、編集コアメンバーとしてガイドブック作成の中心を担いました。編集コアメンバーはオンラインで会議を5回開催し、ガイドブックのコンセプト、具体的なページ構成、執筆の進め方などを決めました。

ガイドブックのコンセプトは当初「応援団員が東京2020大会を楽しむため」というコンセプトでしたが、「東京2020大会をきっかけに藤沢にいらっしゃる方々をおもてなししたい」と団員から声が上がったため、コンセプトを「藤沢にもう一度来たくなるガイドブック」に変更しました。掲載内容は、(1)藤沢の全体案内、(2)藤沢の食、(3)藤沢のあるある、(4)オリパラの全体案内、(5)セーリングの紹介、(6)藤沢ゆかりの選手、(7)各国の挨拶・応援、(8)藤沢の地図、の8つに決定し、2021年2月14日(日)には「ガイドブック編集者説明交流会」を開催しました。交流会に集まった21名の執筆希望者は、担当するページと記載内容についてアイデアを交換し、レイアウトなどについても話し合いました。2月28日(日)にも「ガイドブック編集者座談会」を実施し、執筆での困りごとを共有し、対策をみんなで考えました。

ガイドブックは、2021年3月31日(水)にweb版が公開、6月に印刷版が公開されました。新型コロナウイルスの影響により東京2020オリンピック・セーリング競技会場は無観客での実施となりましたが、ガイドブックへの掲載協力店舗などに配架させていただき、東京2020大会期間前後には、多くの方にガイドブックを読んでもらうことができました。

【写真説明】①みんなの歌をひとつに 会場の様子 ②出演された皆さんの集合写真 ③オンライン参加の皆さんの集合写真 ④オンライン参加者と会場とのコラボレーション ⑤⑥完成した「みんなの歌をひとつに」動画 ⑦ガイドブック編集コアメンバーミーティング ⑧ガイドブック表紙 ⑨ガイドブック掲載例 ⑩執筆者ミーティングの様子

## 5-4 Anthem on the Big Wave～国歌を通じて国際交流～



①



②



③



④



⑤



⑥

2021年5月22日(土)、応援団事務局が主催する大会前最後のイベントとして「Anthem on the Big Wave～国歌を通じて国際交流～」を開催しました。世界中から選手が集まるのを前に、外国のことを身近に感じられることを目的に、国の歴史や文化と深く関わり表彰式でも流れる「国歌」に注目したイベントを行いました。

イベントの前半では国歌について学びました。国歌を題材に国際交流活動をしている「国歌の輪プロジェクト」の浅見良太さんが国歌を楽しむポイントを説明。続いて、藤沢市がホストタウンとなる、エルサルバドル、エジプト、ポルトガルの国歌を海上自衛隊横須賀音楽隊が演奏し、各国の大使らから国歌にまつわるエピソードや国の魅力を教えていただきました。

後半は東京2020大会に向けた盛り上がりをも高めるパフォーマンスが披露されました。海上自衛隊横須賀音楽隊によるオリンピックマーチや湘南をイメージした曲の演奏を披露していただいたほか、セーリングをイメージした応援ソングを歌ってきたSASPとのコラボレーションが実現しました。最後はSASPと子どもたちによる合唱で締めくくりました。

【写真説明】 ①オープニングの様子 ②今川渡祥さんによる進行 ③国歌の輪プロジェクト浅見良太さんによる国歌の楽しみ方講座 ④ボーイスカウトによる国旗掲揚 ⑤海上自衛隊横須賀音楽隊による国歌演奏 ⑥ポルトガルの紹介 ⑦エルサルバドルの紹介 ⑧エジプトの紹介 ⑨海上自衛隊横須賀音楽隊による演奏 ⑩海上自衛隊横須賀音楽隊とコラボレーションが実現 ⑪藤沢の子ども達が活躍 ⑫参加者全員集合写真



【ご協力いただいた皆様】

司会	今川渡祥さん
国歌説明	国歌の輪プロジェクト 浅見良太さん
演奏	海上自衛隊横須賀音楽隊
ポルトガル共和国大使館	補佐官・翻訳官 日置圭一さん
エルサルバドル共和国大使館	特命全権大使 ディエゴ・アレハンドロ・ダルトン 閣下
	参事官 マイラ・バジェ・トーレスさん
エジプト・アラブ共和国	東海大学教授 アルモーメン・アブドーラさん
ボーイスカウト	藤沢第2団、藤沢第6団、藤沢第17団、藤沢第20団
SASP 東亜樹さん	藤沢市の子ども達 創音 H BLOSSOM

## 5-5 大会期間中の応援

2020応援団 藤沢ビッグウェーブ ①

【8月4日(水) ビッグウェーブニュース🌊】  
みなさんこんばんは👋  
本日でセーリングの全レースが無事に終了しました。ご声援、ありがとうございました🙏

今日はこの後、19時から野球🏟️は決勝進出をかけて韓国戦、19時30分からアーティスティックスイミング・デュエット決勝(日本は現在4位)、同じく19時30分から卓球男子団体準決勝(ドイツ戦)、21時15分からレスリング女子62キロ級決勝です。みんなで応援、お願いします👏

🌟🌟🌟 ---本日の主な結果--- 🌟🌟🌟

🌸セーリング最終日🌸

【セーリング男子470級👑メダルレース👑】  
金メダルはオーストラリア、銀スウェーデン、銅スペインでした。  
岡田奎樹選手・外園潤平選手組は7位入賞でした！おめでとうございます！！👏

【セーリング女子470級👑メダルレース👑】  
金メダルは金イギリス、銀ポーランド、銅フランスでした。  
吉田愛選手・吉岡美帆選手組は7位入賞でした！おめでとうございます！！👏

🌸その他の日本人選手の活躍🌸  
日本のこれまでのメダルは、金20個、銀7個、銅12個、合計39個です。  
大橋大輝選手が鉄棒で2つ目の金メダル👑  
屋比久翔平選手がレスリング男子グレコローマンスタイル77キロ級で銅メダル👏  
並木月海選手がボクシング女子フライ級で銅メダル👏  
おめでとうございます🙏

そして、スケートボード女子パークでは、四十住さくら選手が金、開心那選手が銀、岡本碧優選手が4位入賞と、表彰台を独占するような勢いでした！！👏

🌟🌟🌟 ---明日の主な競技--- 🌟🌟🌟  
8月5日(木)は、11時30分から陸上男子4×100m

2020応援団 藤沢ビッグウェーブ ②

【9月3日(金) ビッグウェーブニュース🌊】  
みなさんこんばんは👋  
大会11日目も日本人選手が多くのメダルを獲得👑  
👑、これまでの数が、🏆7個、🏆10個、🏆13個の計30個となりました🙏

🌟🌟🌟 ---本日の主な結果--- 🌟🌟🌟

🌸藤沢ゆかりの選手🌸  
木村朱里選手が出場したボッチャ混合ペアはタイに負け、予選敗退となりました🙏しかし、午後に行われたコロンビアとの最終戦では見事に勝利👏👏。木村選手、お疲れさまでした！👏

🌸🇵🇹ポルトガル共和国の選手🇵🇹🌸  
ボッチャは、ペアBC4クラスと団体BC1/2の選手たちが予選を突破し、明日の準決勝に進んでいます👏

🌸日本人選手の活躍🌸  
自転車の女子個人ロードレースの運動機能障害のクラスで、杉浦佳子選手が金メダルを獲得👑、8/31につづき2冠目となりました👑

また陸上男子100メートル車いすのクラスでは、大矢勇気選手が銀メダルを獲得👑、持ち味であるスタートダッシュの速さは見事でした👑

さらに、ゴールボール女子がブラジルとの3位決定戦に勝ち、銅メダルを獲得👑、2大会ぶりの表彰台に上がりました👑

🌟🌟🌟 ---明日の主な競技--- 🌟🌟🌟  
ポルトガルのチームが出場するボッチャ混合ペアBC4・団体BC1/2ともに、9時30分スタートです👏  
👉一つひとつのボールの癖を見極め、高度な戦略を練って戦うボッチャ、メダルを争う試合はさらに熱いものになっていくはず👏

パラリンピックも明後日までと、いよいよ最終盤となってきました！最後まで熱い戦いを見届けたいと思います🙏  
それではまた明日👏

😊 <

【写真説明】 ①LINE VOOMでの団員向けに特化した情報配信(オリンピック) ②同(パラリンピック) ③④自宅から応援する応援団員 ⑤⑥⑦シテキヤストから投稿のあった写真 ⑧セーリング470級女子吉田愛選手、吉岡美帆選手 ⑨ボッチャ木村朱里選手 ⑩女子サーフィン都筑有夢路選手 ⑪エルサルバドルのサラサル選手(左)とソルルサノ選手(右)



③



④



⑦



⑤



⑥



⑧



⑨



⑩



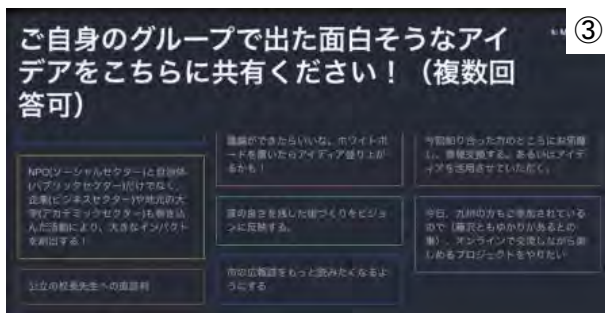
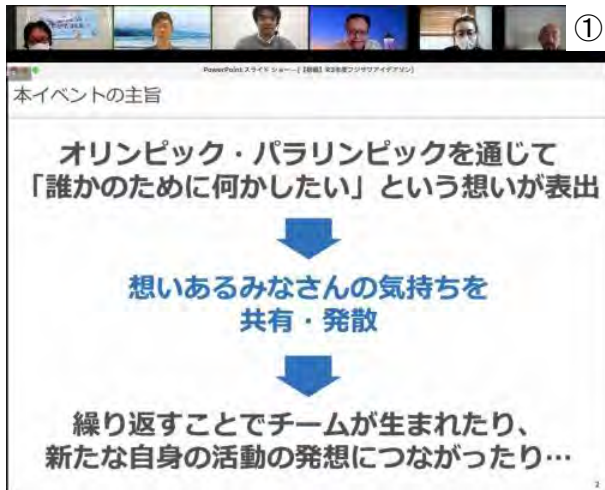
⑪

新型コロナウイルスの影響により、セーリングを含め東京 2020 大会の多くの競技が無観客での実施となりました。団員はオンラインでライブ配信されたセーリングレース映像を観戦するなど、それぞれの形で応援・盛り上げをしました。LINE VOOM では、藤沢ゆかりの選手、ホストタウンとなったエルサルバドル・エジプト・ポルトガルの選手を中心に、最新情報を毎日配信しました。

東京 2020 大会に出場した藤沢ゆかりの選手としては、女子ソフトボール金メダルの山田恵里選手、女子サーフィン銅メダルの都筑有夢路選手、セーリング 470 級女子 7 位入賞の吉田愛選手、吉岡美帆選手、ボッチャ混合ペア 8 位入賞の木村朱里選手などが活躍しました。

## 6 大会終了後の活動

### 6-1 フジサワアイデアソン



2021年11月14日(日)、藤沢市市民活動推進施設との共催で「フジサワアイデアソン」をオンライン開催しました。47人が参加し、応援団員1万8千人のネットワークを活用しつつ未来につなげ、今後の藤沢市の未来像や、感じている課題など、楽しく話し合いながら実現方法を考えました。各団員が興味ある分野に分かれてアイデア出し・意見交換を行った結果、「障がいのある方もない方も安心して参加できるコンサートを開催したい」、「コミュニティ活動を市民に共有するライトニングトークの場を作りたい」のような、アイデアの種がたくさん生まれました。

アイデアソンで生まれたアイデアの種は、2022年1月16日(日)と3月6日(日)に開催された「アイデアの芽を育てる！団員交流会」にて企画内容を具体化していき、応援団の解散後も活動が続くように準備をしました。



【写真説明】 ①アイデアソンの主旨を共有 ②参加者の団員の皆さん ③面白そうなアイデアの共有 ④進め方の説明を聞く団員の皆さん ⑤⑥⑦1/16 団員交流会のグループでの検討 ⑧1/16 団員交流会の様子 ⑨3/6 団員交流会の様子 ⑩活動の提案発表 ⑪グループでの検討 ⑫検討結果

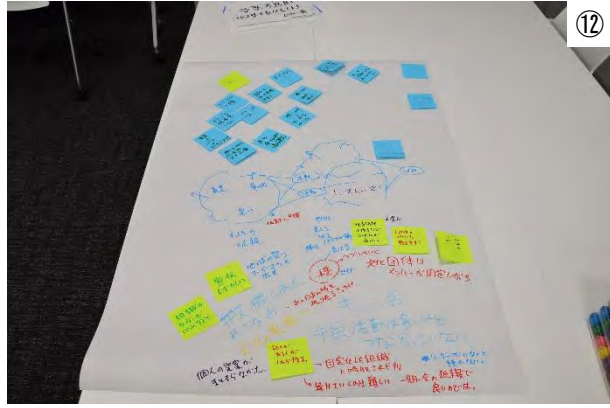
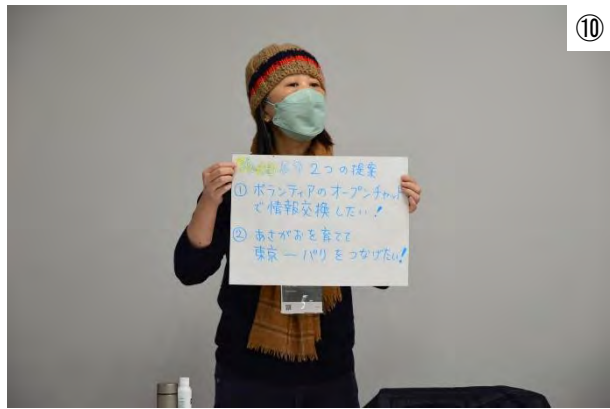
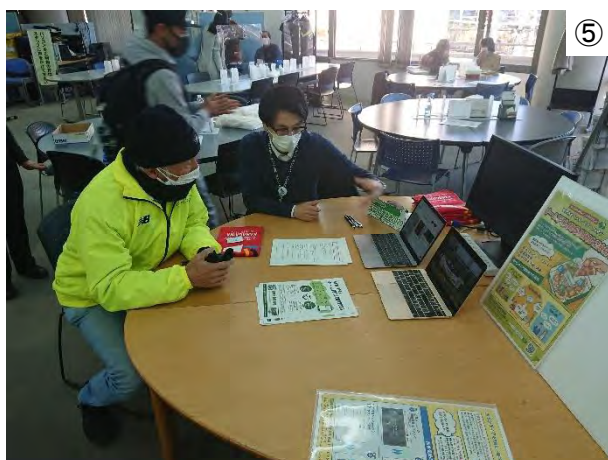
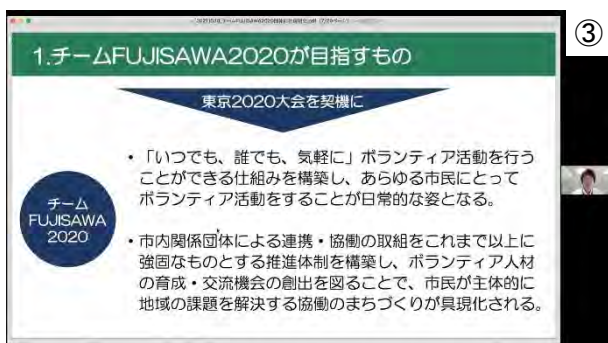


表 9 提案された活動内容の例

1 コミュニティ活動を市民に共有するライトニングトークの場作り
2 障がい児・障がい者が気兼ねなく参加できるコンサートを藤沢市で開催していきたい
3 13 地区でスポーツグループを作りたい
4 藤沢の歴史・文化を知り、それをいろいろな表現につなげられる情報・場を作りたい
5 紙芝居が今後も残っていくための基盤作りがしたい

## 6-2 チーム FUJISAWA2020 説明会 ～団体向け～



2021年10月30日(土)に「チーム FUJISAWA2020 説明会～団体向け～」を開催しました。チーム FUJISAWA2020 とは、「ボランティア活動がもっと身近になるように、さまざまな分野の活動情報を掲載し、気軽に応募ができる仕組み」です。ボランティアに参加したい方がチーム FUJISAWA2020 に掲載されているボランティア募集情報を見て実際にボランティア活動に参加する、マッチングの役割を担う web サイト(<https://team-fujisawa2020.jp/>)が同年10月1日(金)にオープンしました。ボランティア募集情報の掲載を促進するべく、ボランティア募集を希望する団体向けに、説明会をオンラインで開催し、11の方がご参加しました。

また、2022年2月21日(月)には市民活動推進センターにてブース出展を行い、主に団体向けに本 web サイトの PR を行いました。

【写真説明】 ①②③チーム FUJISAWA2020 の説明 ④センターで開催された講座の受講者に向けての PR ⑤⑥ブースでのチーム FUJISAWA2020 の説明

## 6-3 団員の声

応援団では、1万8000人を超える応援団員が思い思いのスタイルで東京2020大会を応援・盛り上げました。ここでは、応援団での活動や東京2020大会への想いやご感想など、「団員の声」を掲載します。「これからはボランティア活動で地元貢献したい」、「これからも藤沢市に関わるボランティアに積極的に参加したい」と、当初の長期的目的であった「市民によるボランティア・市民活動への参加の土壌拡大」に対する成果が見られる結果となりました。

ボランティアの活動でグローバルに藤沢市をPRするためガイドブック「世界のことば」作成に参加！コロナ禍の中オンラインで打合せを重ね完成したことはよい思い出になりました。

女子バスケのチーム力が凄い！決勝戦のアメリカとの競り合い、目が離せませんでした！！

都筑有夢路さんのプレーに大興奮でした！お疲れ様でした！！

よしよしペア、お疲れ様でした！

知らないことを知る貴重な機会でした！みんなの熱意がすごかった！楽しかったです。ありがとう。

高校生映像クリエイターやりました！！直前配信イベント、とても楽しかったです！

あむろちゃん、メダルおめでとうございます！娘の中学校の先輩なので、特に応援していました！

従兄弟がラップの芯で、バトン渡さなかった真似をしています！笑

水泳、家族みんなで応援しました！

色々な豊かなタレント性のある人と接触できた。他の応援団員や事務局の皆さんなど技術的なことを指導して下さる人と出会えて、自分の得意・好きな事を発揮する機会を与えて頂き感謝です。また、居住地元や藤沢には、求めたヘルプに積極的に協力してくれる人々と出会えたのは私の経験の宝物。藤沢の街を本当に好きで盛り上げるのに真剣に力を出し合っただけで結集できたと思う。大会へ直に応援するのは covid-19 で出来なかったが、言葉はなくても選手団には通じたと信じている。

新型コロナウイルスの影響で活動の芽が摘まれたと思いましたが、お迎えに参加できてよかったで

スケートボードで失敗した選手にみんなが集まって励ましている姿に感動した。

藤沢市民の結束力が増したと感じています。さらに江の島を始めとする藤沢市の再発見をより意識するようになりました。これからはボランティア活動で、地元へ貢献していきます。

開会式のスポーツピクトグラムが面白かった。「片翼の小さな飛行機」は感動的だった。

現地に行って観戦したかった！

地元の選手が大活躍！！

色々ありましたが...オリンピックに関わることは一切参加できませんでしたが、参加しようという関心を持ち、役に立とうと努力したことは、自分自身のプラスになったと思いました。長い間お疲れ様でした。お世話になりました。ありがとうございました。

LINEの操作が少し難しかった。

海上自衛隊の演奏を聞けるとは思ってもいなかった。素晴らしかった。

勉強の合間にLINEでメダルの状況を確認しました！沢山メダルとってるイメージです！！

空手の形がカッコ良すぎた！

多くの仲間と出会い、代替え活動でしたが東京2020を応援できました。涙あり、笑顔ありの貴重な経験でした。橋本聖子さんにお礼の声を掛けていただき嬉しかった！パリ大会へと活動は続いています！

応援団のおかげで、これまでにない新たな方々に出会い、市内の色々なイベントに参加して、一緒に活動して、楽しい思い出がたくさんできました！このつながりが今後も続きますように！

団員としての活動で、東京2020に関わって大変良い思い出になりました。正直には新型コロナウイルスが無ければ、もっと、多くの、そして楽しかったのだろうとの思いがあります。

藤沢出身の選手がメダルを獲得した時は感動しました！ありがとうございました！

初体験のCity Cast Fujisawaの活動だったが中止。研修で、セーリング、藤沢の歴史、観光、英語での道案内、障がい者への理解、LGBT、暑さ対策等を学び、備えてたのに。ガックシ！でも、同じ目的の仲間がそこにはいた。今後もよろしく！

無観客だったのは残念でしたが、ボランティアやイベントにオンラインで参加させて頂き、遠方に住んでいながらオリンピックを支える一人になれた事に感謝します。皆さんお疲れさまでした！！これからも藤沢のためにできる事があれば参加させて頂きたいです。

LINE、いつも見てました。

2020 応援団藤沢ビッグウェーブに藤沢市民として参加できたことは非常に有意義で、誇らしく思います。また、コロナ禍で行われたオリンピック、パラリンピックは特別な勇気を貰いました。今回は藤沢を訪れる皆様用にガイドブックを作るコアメンバーとして参加させて頂きましたが、これからも藤沢市に関わるボランティアに積極的に参加したいと思います。

## 7 結びに代えて

「2020 応援団プロジェクト」は、2016 年 4 月の「藤沢市東京オリンピック・パラリンピック開催準備室」の開設直後に「藤沢で開催されるオリンピック・セーリング競技を応援する市民のたまり場をつくらう」との思いから始まりました。

まちの活性化を実現するために、市民の自主的な活動を応援する事業を実施していた組織として、何かお手伝いできることはないかと、実行部隊として手を上げさせていただきました。最初に取り組んだのは、プロジェクト名の決定です。10 代・20 代 28 人の市民の皆様にお集まりいただき、名称決定ワークショップを開催しました。数多くの候補から最終的に選ばれたのは、小学生の参加者が原案を作成した「藤沢ビッグウェーブ」でした。その後も市民参加型のイベントやワークショップなど数多く開催しました。参加及び連絡ツールは、郵送・メール・LINE アプリと多様に展開し、最終的には 1 万 8000 人を超える団員を抱え、まさに「大きな波」となったことは、大変うれしい結果です。

オリンピックとパラリンピックのボランティアといえば、フィールドキャスト(大会ボランティア)とシティキャスト(都市ボランティア)を思い浮かべる方も多い中、藤沢市には「2020 応援団」がいたことは全国的に見ても類のないことです。そして、大会が延期になっても、応援団の皆様は意欲的にそれぞれの得意技を活かして、コロナ禍にも耐え、継続的に活動してくださいました。これこそが、藤沢市民のソコチカラを存分に発揮した活動ではなかったのではないのでしょうか。藤沢市では、シティキャスト向けの活動も多々ありましたが、一味違う自主的な活動を展開できたことに、誇りを持っています。

東京 2020 大会は 2021 年 9 月に終了しました。ぼっかり穴が開いたようになるのかと思いきや、ますます元気な応援団員は今後の動きを模索し始めました。藤沢ビッグウェーブはいったん解散しますが、残り火を秘めた団員は、それぞれのフィールドで動き出すのではないかと期待が膨らみます。5 年後、10 年後に活動のきっかけは「藤沢ビッグウェーブ」と言ってくれる市民がいることを願ってやみません。

最後になりますが、「2020 応援団」を支えてくださった、関係者の皆様に深くお礼を申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。

認定特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

理事長

手塚明美



## 添付資料 応援団活動関連年表

年月日	できごと
2013 9 8	2020年の大会の会場が東京に決定。
2015 6 8	セーリング会場が江の島に決定。
2018 2 3	<b>応援団イベント</b> 「市民応援団の名前を考えてみよう」を実施。
3 24	<b>応援団イベント</b> 「市民応援団設立プレイベント」を実施。
31	<b>応援団イベント</b> 「市民応援団設立イベント」を実施。
4 1	応援団活動が開始。応援団 LINE メルマガ第1号を配信。
4	J:COM「デイリーニュース」で応援団が紹介される。
24	団員数が1000人を突破。
5 16-20	<b>応援団ブース</b> イトーヨーカ堂湘南台店にブース出展。
26-27	<b>応援団ブース</b> 産業フェスタにブース出展。
6 20	<b>応援団イベント</b> 「1964大会藤沢市記録映像上映会」を実施。
29	<b>応援団イベント</b> 「あなたの活動を2020年に向けたものにしませんか? ~『東京2020 参画プログラム』『beyond2020』説明会~」を実施。
7 24	団員数が5000人を突破。
8 25	<b>応援団ブース</b> パラリンピック実施2年前イベントにブース出展。
9 2	ボランティアフォーラムが開催される。
9	セーリングワールドカップにてイベントボランティア・おもてなしボランティアが活躍する。
15	<b>応援団ブース</b> 地域活動見本市にブース出展。
15-16	<b>応援団ブース</b> セーリングワールドカップにブース出展。
16	ふじさわパラススポーツフェスタ2018が開催される。ボランティア協力を実施。
26	都市ボランティア1次募集開始(12月7日まで)
29	市民まつりパレードに団員31人の参加予定が、台風のため中止。
10 19	<b>応援団イベント</b> 「あなたの団体も東京2020の機会を活用しませんか? ~『東京2020 参画プログラム』説明会~」を実施。
27-28	<b>応援団ブース</b> イトーヨーカ堂湘南台店にブース出展。
11 3-4	<b>応援団ブース</b> 東京ガス展にブース出展。
28	団員数が1万人を突破。
30	<b>応援団イベント</b> 「団員登録1万人突破。記念イベント」を実施。
12 15	<b>応援団ブース</b> 市民活動推進センタークリスマス交流会にブース出展。
30	「2020 応援団藤沢ビッグウェーブ スタートの1年!」動画を配信。
2019 2 9	<b>応援団イベント</b> 中学生~大学生対象「2020年に向けてやりたいことを考えるバスツアー」が、雪のため中止。
17	<b>応援団イベント</b> 「サポーターズミーティング(第1回)」を実施。
3 9	<b>応援団イベント</b> 「アスリートと考えるまちづくり」を実施。
16	<b>応援団ブース</b> 500日前イベントにブース出展。
23	<b>応援団イベント</b> 「ビッグウェーブ・アイデアソン」を実施。

年月日	できごと
2019 4 1	<b>団員企画</b> 団員企画の活動が開始。
10	都市ボランティア2次募集開始(7月5日まで)
5 16	レディオ湘南にて応援団が紹介される。
18-19	<b>応援団ブース</b> イトーヨーカ堂に応援団ブースを出展。
6 23	特別講座 ホテルで学ぶ「おもてなし」が開催される。
14	セーリングすごろくが公開される。
7 17	応援団 LINE 第 100 号を配信。
24	1 年前記者会見が開催。
25	レディオ湘南にて応援団が紹介される。
26	湘南白百合学園によるビーチクリーンが開催される。
27	<b>団員企画</b> 「遊行の盆」チームが遊行踊りコンテストに参加。
8 2	団員数が 1 万 5 千人を突破。
17	特別講座 オリジナルテキストで学ぶ英語講座！～初級編～が開催される。
22	レディオ湘南にて応援団が紹介される。
24	オーストリアのセーリングチームと村岡中学校生徒達との交流イベントにて、ボランティア協力を実施。
25	<b>応援団イベント</b> 「藍染め体験会」を実施。
25	セーリングワールドカップシリーズ江の島大会 2019 の「ウェルカムフェスティバル in サンセット」にてボランティア協力。
31	<b>応援団イベント</b> 「ワールドカップフェスティバル観覧会」を開催。
9 19	<b>団員企画</b> 紙芝居:紙芝居を初公開。湘南フィルモールにて上演。
25	日本テレビのスポーツゴミ拾いの番組収録
28	<b>応援団ブース</b> 市民まつり(秋葉台会場)に出展 <b>団員企画</b> 紙芝居:藤沢市民まつりにて上演
29	市民まつり(藤沢会場)にてパレードに参加 J:COM「デイリーニュース」にて市民まつり応援団ブースが紹介される。
10 26-27	イトーヨーカ堂に応援団ブースを出展。
11 2	<b>団員企画</b> サンバ:プールで動画撮影
17	<b>団員企画</b> 子ども fes: FujisawaSST 文化祭に出演
2020 2 2	<b>応援団イベント</b> 「2030 SDGs カードゲーム」を実施。
15	<b>応援団イベント</b> 「サポーターズミーティング(第 2 回)」を実施。
	新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響が顕著になり始める
3 24	東京 2020 大会の 1 年延期を、組織委員会と国際オリンピック委員会(IOC)が共同声明で発表。

年月日	できごと
2020 6 10	応援団メールマガジン第 200 号を配信。
7 23	応援団イベント「～ビッグウェーブ再集結！～1年前オンラインまつり」を実施。
8 2	団員が 15000 人を突破。
10 30	応援団イベント「サポーターズミーティング(第 3 回)」を実施(11/21 まで全 5 回)。
12 4	応援団 LINE 第 200 号を配信。
6	団員企画 紙芝居:動画撮影
13	応援団イベント「サポーターズミーティング(第 4 回)」を実施。
2021 1 17	ガイドブック編集コアメンバー会議を実施(4/17 まで全 5 回)。
30	応援団イベント「みんなで歌おう」を実施。
2 14	応援団イベント「ガイドブック編集者説明交流会」を実施。
28	応援団イベント「ガイドブック編集者座談会」を実施。
3 31	「みんなで歌おう」動画が公開 「ガイドブック web 版」が公開 紙芝居公開
5 22	応援団イベント「Anthem on the Big Wave」を実施。
	エルサルバドルとエジプトフェンシングチームが事前合宿
6	「ガイドブック冊子版」を公開。
7 23	オリンピック開会式が開催される。
	ポルトガルチームが事前合宿。
8	パラリンピックが開催される。
10 1	「チーム FUJISAWA2020」Web サイトが公開される。
30	応援団イベント「チーム FUJISAWA2020 団体説明会」を実施。
11 14	応援団イベント「フジサワアイデアソン」を実施。
11 27	「藤沢アスリート報告会」が開催される。
2022 1 9	応援団イベント「フジサワアイデアソン・計画づくり WS」を実施。
2 21	応援団ブース 藤沢市市民活動推進センターにてチーム FUJISAWA2020 ブースを出展。
3 6	応援団イベント「フジサワアイデアソン・計画づくり WS」を実施。
31	応援団活動が終了。



## 2020 応援団 藤沢ビッグウェーブ 応援団の活動アーカイブ

### 発行日

初版 2022年1月31日

第二版 2022年3月31日

### 制作

2020 応援団 藤沢ビッグウェーブ事務局

### お問い合わせ

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

〒251-0052 藤沢市藤沢 577 番地 寿ビル 301 号室

☎0466-53-7366

✉f-npoc@shonanfujisawa.com





